

## 令和元年度 上田市立城下小学校 学校自己評価シート（年度末）

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価	
まなび きたえ ともにのびる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の話を聞き、自分の考えを伝え合い学びを深めようとする子</li> <li>心と体の健康を考え、進んできたえようとする子</li> <li>互いに支え合い、思いやりの心を 育もうとする子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 時間の授業内容の焦点化を図ることで、追究が明確になり、自分の考えや、友の話しを聞く場面も増え、深い学びにつながる事ができた。</li> <li>元気に遊ぶ姿が多く見られた。全校体育やマラソントimeなどで楽しみながら基礎体力の向上が図れた。</li> <li>思いやりの心を育てることは難しいが、児童個々の良さを認めながら、学級づくりを進めることが出来た。</li> <li>学習内容の焦点化の取り組みが進んだが、お互いの取組を「指導の知恵」にまとめ、成果や課題を職員で共有していくことができた。</li> <li>授業のユニバーサルデザイン化の取組は授業実践を重ねることで進めることが出来た。</li> <li>わかりやすい板書やデジタル教科書の利用など提示の工夫ができた。</li> <li>ユニバーサルデザイン化のチェックシートやUDカードの活用により、職員個々や学校全体の授業作りの課題を明確にして取り組むことができた。</li> <li>グループ学習やペア学習をと積極的に取り入れ、自分の考えをしっかりと持つ場面を意識的に設定し、自分とは違う意見を認め合える雰囲気づくりができた。</li> </ul>	
	今年度の重点目標 「指導の基盤になる集団の育成」		評価
1	授業のユニバーサルデザイン化による誰もが安心して学べる環境づくり		B
2	お互いが認め合い高め合える、人間関係を大事にした集団づくり		B
3	ルールとマナーが定着した安心して自己表現できる集団づくり	B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	A	B	C	D	成果と課題
学校教育 学校 運営	教育課程・学習指導	心の通じ合いを重視した指導の推進	協力して活動する場や互いの良さを認め合える場を設定しながら行事、学級経営、学習指導を進めることができたか。	13%	58%	29%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や音楽会など行事の中で協力することの大切さを実感する場面をもつことができた。</li> <li>帰りの会で、友だちの良いところを伝え合う活動をしたことで、お互いの良さに気づけるようになってきた。</li> <li>協力し、分担しながら学校行事を進めた。役割を得ることで積極的に取り組む姿が見られた。自治的な力がついてきたので、日々の活動につなげたい。</li> </ul>
		授業のユニバーサルデザイン化	どの子にもわかる・できる授業づくり、確かな学力が身につけていく授業づくりができたか。	4%	88%	8%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザイン化のチェックシートやUDカードの活用により、職員個々や学校全体の授業づくりの課題を明確にして取り組むことができた。</li> <li>ユニバーサルデザイン化の理解が進み、様々な工夫を授業に取り入れた実践が進んでいるが、児童の実態にあった支援の度合いをどうするか課題である。</li> <li>多くの実践の中で明確になったことを、活用できる「指導の知恵」としてまとめ実践を進めていくことが出来た。</li> <li>特に「焦点化」に重点をおいて、毎回意識して授業を仕組み実践を進めることが出来た。</li> <li>個に応じた学習形態を心がけた。授業のテンポ、学習量、言葉がけをふり返り改善を図ることが出来た。</li> <li>UD化についてはまだ発展途上なので、授業を通して考えたい。</li> </ul>
	学び合いを大事にし、考えを交流する場の設定	国語の読解力、算数の思考力の向上を目指し追究の場でお互いの考えを伝え合い、話し合う学習活動を設定しているか。	4%	67%	29%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習、ペア学習を意識的に取り入れることができた。</li> <li>「追究対象」「追究方法」を絞り込み、「話し合いの方法」の指導をもっと丁寧に指導する必要がある。</li> <li>少人数で話し合う時間をとるようにしたり、「話し方」「聞き方」のモデルを全体に示したりして表現しやすいようにしている。</li> <li>算数では自分の考えを言語化することを大切に、より多くの児童が発言できるようにペアでの説明の時間を意識的に取り入れた。モデル文を用意するなど個に応じた支援の工夫が出来た。</li> <li>追究の時間の後にお互いの考えを確かめ合う場面、教え合う場面を大切にできたが、相手の考えを聞いてさらに深く考え合うところまではまだ至っていない。</li> </ul>	

	家庭学習の充実	家庭学習の手引きを活用し、日頃の学習指導と連携させて家庭学習の習慣化がはかれたか。	9 %	67 %	24 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題のマルつけなど、努力を認めるコメントを書くことができたクラスが多かった。</li> <li>・家庭学習の習慣化については、課題が見られる。授業内容の応じた家庭学習のあり方など、家庭学習を定着させる工夫が必要である。</li> <li>・「紡ぐ」の活用のために、家庭のチェックや連携を呼びかけたい。</li> <li>・習慣化してきたが個々の差もある。取組について保護者へ様子を発信したい。</li> </ul>
生徒指導	明るい挨拶や返事の励行	進んで行う挨拶や気持ちよい返事を繰り返し指導し、教師が実践することで、子ども達に広がっていったか。	4 %	79 %	17 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの良い挨拶のできる児童が多い。自分から進んで挨拶ができる児童がいるが、まだ、自分から挨拶できない児童もいる。挨拶の意味を繰り返し指導すると共に、挨拶が習慣化できるように、職員の後ろ姿で教えていく。</li> <li>・挨拶を返したり自分から挨拶したりできる子どもが、どの学年も増えてきた。</li> <li>・まだまだ大きな声で挨拶できない児童もいる、学級では少しずつ無理をせず意識を高めている。学校全体では取組を通して、挨拶を返す子どもが多くなった。</li> </ul>
	生活規範意識の育成 (基本的な生活のルールの確立)	集団生活のきまりや約束に関する日常的な指導を進めたか。(遊びの約束事の徹底、安全な廊下歩行、授業を受けるルールの指導、無言清掃の取り組みに向けた指導等) 規則正しい生活習慣が身につけてきたか。	0 %	71 %	29 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や行事だけでなく、ことあるごとに指導をしている。教師間での連絡も密にし、取り組むことができている。</li> <li>・無言清掃の取り組みには、学年・学級で差があるので、学年、クラス関係なく指導を入れていく</li> <li>・職員が、同一歩調で指導することにより、職員全体で規範意識を育成していくことが出来た。</li> <li>・重点的に取り組んできた「無言清掃」「廊下歩行」は、子ども同士で気遣ったり工夫したりして、みんな達成させようという態度が身につけてきた。</li> </ul>
	いじめ・不登校を未然に防ぐ取り組み (温かな人間関係)	自他の良さを認める場の設定や日常的な人権同和教育、自己有能感を高める教育活動を行うことができたか。子ども達の様子に目を配り、友達関係や実態をつかみきめ細やかな保護者との連絡を心がけることができたか。	12 %	75 %	13 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談週間での一人一人との相談や日頃の学校生活の様子から子どもたちの実態を把握し、早め早めの対応を心がけている。教師間での情報のやり取りを密にして、小さな変化に気づけるようにしている。</li> <li>・児童の頑張りを見落とさないようにし、本人に良さを伝えることが続けている。</li> <li>・その都度、小さな事でも情報を共有できるようにし、適切な対応ができるように複数の眼で見えていくことが出来た。</li> <li>・先生方の連携で子どもの情報が共有でき、相談場所や落ち着いて学習に取り組める環境が提供されている。学級で不安を抱えていた子が、安心して学校生活を送ることができている。</li> </ul>
地域と連携	学社融合 地域の方々との交流 保護者との連携	地域で活躍している方々と連携して、地域のものや人と関わる活動や交流ができたか。参観、行事、懇談、環境整備等、保護者の方々の理解や協力を得ながら教育活動を展開しているか。	21 %	57 %	21 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域めぐり、米作り、社会見学等で多くの支援をいただいている。ボランティア活動でも多くの方に参加していただいた。</li> <li>・クラブ活動を通して、地域と交流することができた。</li> <li>・「学校へ行こう週間」や参観日だけでなく、連絡帳やお便り、電話等で理解を得られるように努力していく。</li> <li>・PTA活動を通して多くの協力を得ている。保護者の意見や要望を聞きながら連携を深めていく。</li> </ul>
	学校からの情報発信	学校、学年、学級日より、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	12 %	71 %	17 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信や学級通信、学校だよりを発行し、情報を発信している。ホームページでは学校の出来事を細かく紹介している。</li> <li>・学校の様子を発信だけでなく、保護者が必要としている情報を手軽に得ることができるようにホームページなどの活用の工夫をしていく。</li> </ul>
研修	授業づくり 研修	国語・算数・道徳等の授業研究会や一人一公開授業を通して、自らの課題に向けて授業改善を進められたか。	25 %	67 %	8 %	0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの職員が授業を公開し、授業を見合う中で、学び合うことができ、自己の実践を見返すことができた。</li> <li>・毎週行われる「重点研究部会」の研修により、授業力を磨くことができた。</li> <li>・各自課題を明確にし授業改善を進めるだけでなく、学んだことを共有する場をもつことが出来た。</li> </ul>